



特集

「対話的な学び」を 考える

〈エッセイ〉 言葉以前の対話 関野吉晴

〈鼎談〉 道徳の時間は、対話の時間
杉中康平・尾崎正美・荻原 忍

連載

知って役立つ発達心理学① ……7
渡辺弥生

わたしの授業レポート ……8
「流行おくれ」(小5) 東 幸恵・朝倉諭美子
「許せないよね」(中2) 及川仁美・田沼茂紀

道徳授業で哲学綱を① ……12
苫野一徳

特集

「対話的な学び」 を考える

「対話的な学び」は、これからの子どもたちの学びにおいて、大切なキーワードになります。では、道徳科の学びの中に、「対話」という営みをどのように取り入れていけばよいのでしょうか。その考え方と実践のためのヒントを特集します。

50年前、アマゾン川の最上流をゴムボートで下っていた。

日も沈みかけた頃、泊まれそうなところを探していると、青年一人と子どもたち数人が、珍しそうにこちらを眺めていた。私は、ここに泊めてくれるかどうかを尋ねてみた。スペイン語はわからないようなので、ジェスチャーで訴えた。最初のうちは、あまりいい顔をしなかったが、とにかく許可は下り、村に案内された。

人影は少なかった。一角で、女たちがたむろしていた。そのうちで最年長と思われる女に、ザックの中から取り出したマッチと小さな鏡を手渡そうとすると、全然受け取ろうとしなかった。受け取ろうとしないどころか、じっとうつむいて黙ったまま、私の方を振り向こうともしない。

[エッセイ]

言葉以前の対話

関野吉晴 (探検家・医師)

Yoshiharu Sekino

私は指定された小屋に案内され、そこにザックを置いて座った。村の人たちは皆、私には近寄ろうとはしなかった。子どもたちも遠くから私を見つめるだけ。一人で遠くから皆に観察されているのは、とても寂しい。また、物を与えれば、何でも喜んで受け取り、それによって仲良くなれるだろうと思っていた自分のさもしい心を彼らにのぞかれたようで、恥ずかしかった。

日も沈み、暗くなり始めた。相変わらず彼らは近寄ってこない。そのうちに狩りに行っていた者も帰ってきた。彼らも近づこうとはしなかった。炬を取り囲み、みんなが私の方を見ていた。集団の中で孤立したときの、なんと寂しいことだろうか。こんなことなら、いっそ一人で露營すればよかったと思った。そのほうが、よっぽど寂しさは感じない。

そのうえ、私の一挙一動が彼らに注目されているのが、とてもつらく窮屈だった。私はふてくされて、星を見ながら、大声で日本の歌をうたい始めた。そして、しばらくうたっていると、奇妙なことが起こった。子どもたちが恐る恐る寄ってきて、私の前にきちんと座り、私の後について歌をうたい始めたのだ。

私にとっては、まったく意外な出来事だった。私は彼らの歓心を買うためにうたい始めたのではなかった。

彼ら是一所懸命にうたった。日本の歌を覚えたいのだろうか。私が一小節をうたい終わると、彼らはそれを繰り返した。まるで輪唱しているようだった。

そのうちに大人たちも近寄ってきた。そして、マッチと鏡を受け取るのを拒んだ女性が、タニシを大きくしたような巻き貝を15個ほど持ってきて、私の前にさっと出してくれた。ツブ貝のような味がするが、それより臭みがあった。5、6個食べて、残りを前に出すと子どもたちの手がすーっと伸びてきて、たちまちのうちになくなってしまった。彼らにとっては、相当の御馳走だったのだろう。

再び歌をうたい始めた。目頭がじーんと熱くなってくるのを感じた。物を与えることによってではなく、歌によって彼らと心が通じ合ったのがひどくうれしかった。その晩、輪唱はかなり遅くまで続いた。

人類の歴史700万年の中で言葉を使うようになったのは、たかだか7万年前といわれている。ゴリラ研究者の山極寿一やまきわじゅいちさんは、「ゴリラは言葉をもちませんが、

いろいろな方法で気持ちを伝え合っています。表情や歌が、ゴリラにとっての表現方法です。言葉はなくても歌があるから、ゴリラはまとまりのよい集団を形成できているのです」という。幼い乳児は言葉で表現できず、ひたすら泣き叫ぶ。母親は子守唄で、乳児をあやす。

人間は他の霊長類にはない特徴をもっている。顔の表情筋の多さと、白眼だ。対面して話す人間は、言葉とともに、目の動きと表情も重要な表現手段なのだ。

人間はどのように言葉以外にも、多彩な対話能力をもっているといえるようだ。

関野吉晴 ●せきのよしはる

1949年東京都生まれ。一橋大学在学中から、南米への旅を続け、1993年からは、人類が拡散したルートを自らの脚力と腕力だけを頼りに遡行する「グレートジャーニー」をスタート。アメリカ大陸から、ユーラシア大陸を経て、アフリカへ、約5万3千キロの道のりを10年かけて辿った。著書に、『グレートジャーニー——地球を這う(1)(2) Kindle版』(筑摩書房)など多数。



「グレートジャーニー」に挑戦している頃の筆者。

【鼎談】

道徳の時間は、対話の時間

光村図書道徳教科書『きみが いちばん ひかるとき』の編集委員である杉中康平先生を司会に、小学校からは尾崎正美先生、中学校からは荻原忍先生をお招きし、道徳科における「対話的な学び」について、語り合っていました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、大阪、岡山、長野、東京（編集部）をオンラインで結んでの鼎談となりました。

杉中康平 ●すぎなか こうへい
四天王寺大学 教授

尾崎正美 ●おざき まさみ
岡山県瀬戸内市立国府小学校 教諭

荻原忍 ●おぎはら しのぶ
長野県佐久市立中込中学校 教諭

道徳の学びと対話

杉中 今日、道徳科における「対話的な学び」について、先生方と考えていきたいと思えます。対話には、大きく四つのものがありますね。「教材との対話」「授業者との対話」「子どもどうしの対話」、そして、「自己内対話」です。道徳科では、こうした対話を通して、自分の生き方を深く考えていくことになるのだらうと思えます。

まず、あえて、先生方に問いたいのですが、なぜ、道徳科の学びにとって、対話が大切なものであり、必要なものなのでしょう。

荻原 私は、対話という営みは、自分を「客観視」するプロセスとして大切なものだと考えています。日常的に、「これって大事だよ」とか、「これでいいんだよ」と思っていることを、対話の中で「どうして」と問われると、改めて自分が大事にしてきたことを、「なんでだろう」と考える。それが、自分の考えや経

験を客観化して見るということにつながるのだと思えます。つまり、自分との対話、友達との対話を通して、自分の経験を子ども自身が価値付けたり、他の経験と関連付けたりして考えることができる。その点で、対話は、道徳科での学びを深めるための大切な鍵になると思えます。

尾崎 確かに、荻原先生のいう客観視ということはとても大事ですよ。

私は、対話を通して、「違い」に気づかせることを大切にしています。学校という場所は、同じ年齢の子たち、しかも、たいていは同じ地域に住んでいる子たちが通っていて、ずっと同じような人間関係が続いているような場所です。子どもたちは意外と、自分と周りは「同じ」だと思って生活しているんです。そんな中でも、自分の考えや価値観を話すことによって、自分と相手は違うんだと気づくことができます。いつもいっしょに遊んでいる友達でさえ、自分と違う考えをもっている、人間というのは違う考えがあつてあたりま

えなんだという経験を、ちょっとずつ、毎時間積み重ねていくことが大事だと思っています。

そうすることによって、今までの自分の考えはよかったのかなとか、そんないい考えもあるんだなどと、見つけ直すことにつながっていきます。違いがあるというのを実体験していくのが、対話であり、それが自分を見つめることにもなると思えます。

対話的な学びを成立させるために

杉中 私たちは、対話というものに、性急に「共感」を求めがちですが、道徳科における対話的な学びにおいては、まずは、自己を「客観視」することや、他者との「違い」に気づく経験を丁寧に積み重ねていくことが鍵になりそうですね。

とはいえ、実際の授業では、子どもが本音を語りたがらない、なかなか話が盛り上がらないと、悩んでいる先生も多いと思えます。道徳科の授業で、対話的な学びを成立させるための前提や条件、対話を進めていくうえで大切にしていることを、聞かせてください。

荻原 対話が、学習活動として意図的に取り入れられ始めた頃、自分の中で葛藤がありました。感じたことや思ったことを自由に話し合ってもらおうという授業、つまり、子どもに主導権を与える授業をたくさん拝見しました。しかし、多くは盛り上が

るけれど、深まらないんですね。自分でも、いろいろ悩みながら実践を重ねてきましたが、今は、教師側が、何を子どもたちに考えさせたいかという明確な指導観を前提としてもつ必要がある、と考えています。

尾崎 私は、対話の学びが成立する条件として、まず対話が成立する「土壌」というものを重視しています。特に、小学校では、学級経営、あるいは、道徳科以外の時間に、どのように過ごしているのかが、大事だと思います。つまり、それは、「学級の中で多様な考えがあることを認め合っているか」ということです。「どの子もみんな違っていいんだ」「何を言ってもいいんだ、思ったことを素直に出していいんだ」「誰か絶対、助けてくれるんだ」という信頼感、そういうものがないと、本音は出せないと思えます。

そういう「土壌」があつたうえで、荻原先生が言われたように、思わず考えを語りたくなるような問いや、他の人の考えを聞いてみたくなるような問いを、教師が明確な指導観をもって設定することが、大切だと思います。なんとなく、何をしたのかなと思ってしまう授業って、単に教材を学ぼうとしている、つまり、教材の理解にとどまっているものが多いと思えます。何に目を向けて、どういうふうな生き方を考えさせたいのかというところを明確にしていることが、必要だと思います。

それから、私は、「わからない」



道徳科の授業は、「生き方」を問うているわけだから、本来、間違いも正解もない。立ち止まることもある。(杉中先生)



杉中康平 ●すぎなか こうへい
 四天王寺大学教授(道徳教育学、教育実践学)。主な著書に、「楽しく豊かな道徳科の授業をつくる」「楽しく豊かな道徳科の授業をつくる2」(編者)(ミネルヴァ書房)、「中学校「動き」のある道徳科授業のつくり方」(共著)(東洋館出版社)などがある。光村図書小・中学校「道徳」教科書編集委員。

と言えることを、大事にしています。道徳では、答えがわからなくなって、立ち止まって迷ってもいい。何か答えがないと対話ができないというわけではなくて、自分の状態が言えたら、わかっているのか、わかっているのかが言えたら、そこから対話が始まる、と考えています。

杉中 道徳科の授業は、「生き方」を問うているわけだから、本来、間違いも正解もないんですよね。立ち止まることもある。一見とんちんかんに思えるような意見だって、それが鍵を握って、子どもどうしの対話が深まることもあるんじゃないですか。尾崎先生のおっしゃる土壤、お互いが違いを含めて認め合えるような、失敗が許されるような場というのが、道徳科の授業を行ううえでの大前提といえますね。

子どもどうしの対話を促す工夫

杉中 昨今、授業者と子どもとの対話を念頭に置いた授業論が多いように感じますが、本来大切なのは、子どもどうしの対話をもっと促進していくことです。その点で、工夫していること、気をつけていることはありますか。

尾崎 私も、子どもどうしの対話こそが、大事だと思っています。私は、授業では、あまりしゃべりません。そして、私自身がわかり切っていることを発問しないようにしています。自分の中に答えがないからこそ、子どもの発言を、なるほどと思

いながら聞けるんです。もちろん捉えさせたい道徳的価値はありますが、その価値に行き着くまでの道のりは、ひと筋ではないので、いっぱい考え方があっていいかなと思います。

いろいろな考えが出てくると、他の子たちがそれを理解しているかききたくなるので、発表者が言っていることに対して、必ず子どもに反応させるようにしています。うなずいたり、なるほどと言ったり、何でもいいんです。その反応を見て、「今、納得しているみたいだけど、何に納得したの?」ときいて、子どもどうしで理解し合っているかを確認したり、疑問を出していったりします。

杉中 教師が「わかっていることを問うこと」、つまり、「正解主義」は、子どもどうしの対話を阻害する一つの要因といえますね。尾崎先生のお話を聞いて、先日拝見した小学校の授業実践を思い出しました。

子どもたちが中心発問のときに、1人1枚、A4サイズのホワイトボードを持って、自分の思いや考えを書きます。書いた後、先生が「交流タイム」と宣言すると、自席を離れて、そのボードを持って、お互いが意見を聞き合います。4、5分です。この交流の後、先生はこういう問いを入れたわけです。「○さん、誰の意見が気になった?」と。あるいは「□さんはどう書いていた?」「△さんも似たようなこと書いていなかった?」と。つまり、先生は、子どもどうしがお互いの意見を意識し合い、

交流し合うのを促進するファシリテーターの役を担っている。これは間違いなく、子どもの対話を促進するような動きですね。まさに今、尾崎先生がおっしゃった、ファシリテーターとしての教師の役割といえますね。荻原先生、中学校ではどうですか。

荻原 私は、グループトークを意識的に取り入れています。ペアでの対話の場合、自分が何を考えているかを明確にして終わることも多いのですが、グループにすると、複数の感じ方や考え方が出てくるので、それを比較検討することで、考えが深まるんです。

中学2年生の教材「嫌われるのを恐れる気持ち」を、2時間扱いにして、ひと手間かけたグループトークを行いました。まず、主人公の気持ちに共感するか、しないかをそれぞれに考えさせます。そして、同じ考えの子を4人程度のグループにして、共感する、あるいは、共感しない理由を話し合わせ、ホワイトボードに書かせます。ただし、ボードに意見を書かせただけで終わってはもったいない。その後、どうすれば対話が生まれるか。私は、そこにポスターセッションふうの活動を取り入れてみました。4人グループのうち2人は自分の場所にとどまって、残りの2人は異なる立場のグループの考えを聞きに行く。考えを聞いたら、また自分のグループに戻って、聞き取ったことを同じグループの子に伝える。それを2回、繰り返しました。

1回目のときは、単なる言い合いになってしまったんです。しかし、2回目に回ったときに、「確かにそうだよね」と、自分自身の経験を振り返っている子も出てきて、広がりや深まりが出てきたなと思ったんです。

杉中 まさに、初めに伺った、「違い」や「客観視」という要素を押さえた実践といえますね。尾崎先生、子どもどうしの対話という点では、発達段階から見ると、小学校ではなかなか難しい面もあると思いますが、工夫されていることはありますか。

尾崎 私は、「脳内会議」という実践をやっています。あることで葛藤している登場人物の脳の中に、みんなで入って話し合うという設定の活動です。こう、子どもたちに呼びかけるんです。「主人公は、脳の中で、『きっと、これはこうすべきだ』とか、『いや、しないほうがいい』とか相談をするはずだから、それをみんながこの主人公の脳の中に入るとして、話し合ってみよう」と。

この目的は、合意を生む話し合いにするということなんです。子どもから、多様な考えは出るんだけど、それが出ただけで終わることがままあって、ずっと課題に感じていました。出た意見を、これが大事だってわかったよね、と教師がまとめるのではなく、子ども自身が、何が大事かをまとめていくためには、どうしたらよいかと考えました。そこで、「脳内会議」として、「まとまらないと、この主人公は動けないよ」という設定を考えました。私は、4年生の「絵



対話では、「聞く力」こそが大事。相手の発言の背景を想像できる子どもを育てたい。(荻原先生)



荻原 忍 ●おぎはら しのぶ
 長野県佐久市立中込中学校教諭。公立小学校、特別支援学校に勤務の後、信州大学教育学部附属松本中学校を経て現職。専門は、特別支援教育、数学科。



世界規模の問題も
対話が解決への第一歩になる。
対話の力を、日々の授業で
体感してもらいたい。

(尾崎先生)



尾崎正美 ● おごき まさみ

岡山県瀬戸内市立国府小学校教諭。公立小学校、岡山大学教育学部附属小学校教諭を経て現職。光村図書小学校「道徳」教科書編集委員。



はがきと切手」, 5年生の「プランコ乗りとピエロ」, 6年生の「手品師」などで実践しました。主人公が葛藤し、道徳的によりよい行動をとった結末になっている教材であれば効果的だと思います。

対話のもつ力

杉中 ポスターセッションも「脳内会議」も、意見や考えの出し合いで終わるのではなく、ひと工夫加えることで、「対話的な学び」に劇的に変わることを示してくれます。さて、最後に、今回のテーマについて、改めてお考えになったことを聞かせてください。

荻原 道徳の学びでの対話が、一時的なもので終わるのではなく、地域社会などへ、継続的につながってほしいなと改めて思いました。

そのためには、もちろん自分の考えをもつことが大事ですが、なぜ相手がこのような発言をしたのだろうと、発言の背景とかプロセスまで想像できる子どもに育てていきたいなと思います。つまり、「聞く力」です。自分にも、それぞれいろいろな葛藤があって、現在の自分がある。今、目の前にいる相手もいろんな経験をして、今ここにいる。それぞれが、それぞれのストーリーを紡ぎながら生きている。こうしたことを共有したうえで、自己理解を深めていける道徳科の授業ができればいいなと思います。そのためにも対話を、大事にしていきたいなと思いました。

尾崎 全くその通りだと思います。これまでは、自分の話したいことを話せるということが、重視されてき

たように思うのですが、対話を考えたときに大事なことは、「聞く力」だと思います。教師って、とかく子どもたちに話させよう、発表させようとするんですけど、そういうとき、発表している子どもしか見ていないんですよね。そうではなくて、聞いている子どもたちに焦点を当てて、自分の授業を見直すことが、これから特に大事だなと思っています。ただ単にぼうっと聞くのではなくて、荻原先生が言われたように、相手の思いを理解しようと思って聞く力をつけてやりたいなと思います。

それから、子どもたちには、対話によって成し遂げられることは大きいんだという、「対話のすごさ」というものを、学校にいるうちにしっかり体験してもらいたいなと思っています。対話を試みることで、世界規模の問題でも解決へ向かう一歩がつかれるんだという、対話のもつ力というのを、日々の授業の中で体感して成長していってほしいなと思っています。

杉中 コロナ禍の状況で、私たちは、改めて対話の必要性、つながっていくことの大切さに気づかされました。私は、学校教育を支えているいちばんの根本の力が、対話だと思うんです。そして、その対話の大切さを、子どもたちに伝えていけるのが、まさに、道徳科の時間なのだと思います。今日、その思いを、いっそう強くしました。

先生方、本日はありがとうございました。次は、直接お会いして語り合えることを楽しみにしています。

道徳授業を成功させよう

知って役立つ発達心理学

渡辺弥生

Yayoi Watanabe
(法政大学教授)

第①回 「対話」—コミュニケーションがうまくいかないのは、話し下手だからとっていませんか？

思 春期にさしかかると、話し下手だからと悩む子どもたちが増えていきます。たいてい、「人と話すのが苦手」「『空気』を読むことが苦手」といった気持ちにさいなまれます。そのため、対話どころか、難しいことを話し合おうという雰囲気の授業は、はなから逃げ腰になります。ですが、実は話し下手の問題は「話すスキル」「空気を読むスキル」が苦手というよりは、むしろ「注意」を共有するという「共同注意」の力がまだ弱いからかもしれません。

コミュニケーションの大本は「共同注意」の力

先生が授業中に黒板に何か書き始めると、生徒が一斉にそこに目をやります。これが「共同注意」です。同じ空間の中で、人が他の人と同じようにモノ・コト・人に対して一斉に注意を向けることを指します。さらにいうと自分が他の人と同じように、その対象に対して注意を向けていることを知っている状態ともいえます。

こうした力は、赤ちゃんの時から発達します。下図のように、**1** 赤ちゃんは親とアイコンタクトをかわしながら、しだいに、**2** 相手が何に注意や関心を向けているかを共有するようになります。やがて、**3** 相手は何を見ているかに注意がいき、さらに相手が見ている対象に自分の注意を向けるようになります。赤ちゃんは、言葉を獲得すると、指差しながら「ワンワン」と

対象に注意を向けたことを表現するようになります。その際、親が「ワンワンだね」と応答してやると、赤ちゃんは、親といっしょに対象を共有している三角形の世界（これを「三項関係」とよんでいます）を認識するようになります。このように関係を認識することは、信頼や共感につながる感情を共有することにつながります。これが「共同注意」の本質です。

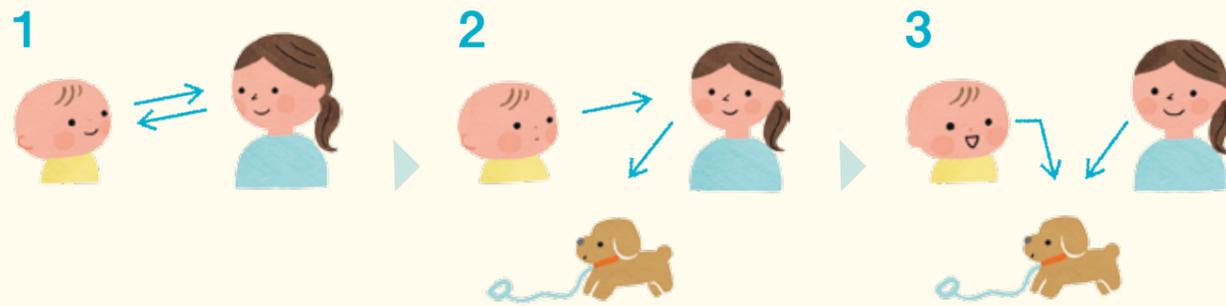
対話を成立させるために

道徳の授業では、「対話」が重要な活動になります。対話を成立させるためには、この共同注意の力は、どの年齢であっても欠かすことができません。相手が何に注意を向けているか、それを共有することが対話の前提となるからです。ですから、相手の話に耳をそばだて、相手に関心を向けようとしていることを能動的に共有しようとする姿勢を育てることが大切なのです。

子どもたちに対話を促すとき、「今、〇〇ちゃんは、△△に関心を向けているね。」と先生が声をかけることは、この力が未熟な子どもたちにはたいへん効果的な支援になります。そして、共感する力も育てます。

渡辺弥生 ● わたなべ やよい

発達心理学、教育学博士。法政大学文学部教授。著書に『感情の正体—発達心理学で気持ちをマネジメントする』（筑摩書房）、「子どもの「10歳の壁」とは何か？ 乗り越えるための発達心理学」（光文社）など。監修に『まんがでわかる発達心理学』（講談社）など。光村図書小・中学校「道徳」教科書編集委員。



「流行おくれ」

出典：文部省「小学校 読み物資料とその利用 主として自分自身に関すること」

学年 5年 内容項目 A(3) 節度、節制

ねらい 節制して生活することの大切さを考えさせることで、節度を守り節制に心がけようとする態度を養う。

東京都新宿区立早稲田小学校
主幹教諭
東 幸恵



わたしの授業、ポイントはココ

導入で、児童は友達の発表に対して「私もある」「わかる」と盛り上がっていました。展開の前半では、主人公のまゆみに自己を投影し、自分勝手さや怒りを表出していました。まゆみになりきって発表する児童もいました。このように、人間の弱い部分をクラスで共有できることはとても大切だと考えています。

また、「散らかっている部屋を見回して、まゆみは、どんなことを考えたでしょう」という発問に対して、児童から「なぜ、『私』（まゆみ）は、欲しがってばかりになってしまったのか」という発言が出ました。そのとき、私は「これ

だ!」と思い、「なぜ、まゆみはそうなってしまったと思いますか」と全体に問い返しました。すると、発表で盛り上がっていた教室に沈黙が流れました。児童は、そこからねらいとする道徳的価値について、さらに考えを深めていったようです。

教師が意図をもって、児童に自分を見つめさせたことで、「わかっているけれどできない自分」と、「よりよく生きたい自分」に気づき、「節度、節制」において、自己の生き方を見つめることができたのではないかと思います。

東先生授業、ココに注目!

場面に応じた発問の設定と児童の発言の適切な受け止めにより、ねらいに沿った一貫性のある授業になっています。また、主人公の変容につながる大事な場面では、多くの発言を引き出し、「何を?」「どういうこと?」などの問い返しを巧みに使って、児童が主人公の問題点に気づくよう促しています。これが次の中心的な発問につながり、A(3)「節度、節制」に関する児童の学びを深めることになりました。これらは、話し合い活動の効果を高める、教師の重要な支援です。

元東京都練馬区立光和小学校 統括校長
朝倉諭美子

教材の内容(あらすじ) 主人公のまゆみは、母に流行りの新しい服が欲しいとうたえるが、「新しいものが出たら、それをすぐ買いたいというのはどうかしら」と取り合ってもらえず、いらいらしていた。そんなまゆみに、弟は、まゆみが持っていた本を返してほしいこと、その本は、本当は買ってもらいたかったけれど、母に「よく考えてね」と言われて図書館から借りたものであることを伝える。

導入

「節度、節制」について自分の生活を振り返り、問題意識をもつ

発問 「○○しすぎた」など、もう少し考えて行動すればよかったと思ったことはありますか。

- テレビを見すぎて、宿題をするのが大変になった。
- 好きなものに熱中して、周りを待たせて迷惑をかけてしまった。

めあて：自制する心をもって生活するために大切なこと

わかっている、自分の気持ちを抑えるのはなかなか難しいことを確認し、めあてにつなげた。

展開

「流行おくれ」を読んで、話し合う

発問 わざと大きな足音を立てて自分の部屋へ駆け上がっているとき、まゆみは、どんなことを思っていたでしょう。

- 1着くらい、いいじゃん。 ● 友達がうらやましい。
- 仲間外れにされてしまう。自分だけおいていかれる。

まゆみの怒り、自分勝手さを押さえた。さらに、児童の発言からまゆみに不安な気持ちもあったことを確認した。

発問 黙ったままうつむいている弟を見て、まゆみは、どんなことを思っていたでしょう。

- [怒り] ● 部屋に勝手に入らないで。言ってくれたら、探したのに。
- [後悔・反省] ● 昨日返さなかったのがよくなった。弟に悪いことをした。
- いらいらをぶつけてしまった。見当違いなことをした。

怒りが続いていることを押さえた。また、反省や後悔の発言から、「自分が悪いかも」と気づき始めたことを確認した。

発問 散らかっている部屋を見回して、まゆみは、どんなことを考えたでしょう。

- [自分] ● 部屋が汚くて情けない。弟に当たって情けない。
- [弟] ● 部屋を片付けて、ちゃんと本を探して弟に返そう。できるだけ早く。
- 弟は工夫して我慢したのに、自分は欲しい物を優先していた。
- [価値] ● なぜ、「私」(まゆみ)は、欲しがってばかりになってしまったのか。

節度、節制を欠くと、自分が困り、後悔するだけでなく、周りの人に嫌な思いをさせることもあることを押さえた。

▶なぜ、まゆみはそうなってしまったと思いますか。

- 我慢できなかったから。▶何を? ● 自分の気持ち。欲しい気持ち。
- 自分のことばかり考えていた。▶どういうこと?
- 周りのことを考えられなかった。
- 先のことを考えていなかった。▶先って? ● 自分の行動の結果。
- 流行はきりが無いのに……。▶それはどういうこと?
- 流行は変わるサイクルが早く、流行を気にしていたら、欲しいものは限りなく出てくる。だから、「本当に自分に必要か」考えることが大事。

児童の発言を取り上げ、道徳的価値の理解に迫った。

「流行はきりが無い」という児童のつぶやきをきっかけに、道徳的価値の理解を深めた。

母に対しての考えが出なかったため、視点を与えた。

▶母に対しては何かありますか。

- 自分(まゆみ)のことを考えてくれたから、厳しかったのだと思う。

中心的な発問 自制する心をもって生活するために大切なことは、何だと思いますか。

- 本当に必要かを考える。 ● 客観的に自分のことを見つめる。
- 時間をおき、落ち着いてから本当に欲しいかを考える。
- 今だけでなく、これから先のことを考える。
- どうなるかを想像して行動する。 ● 他の人のアドバイスも取り入れる。

教材で学んだことを基に、めあてに対して、グループで話し合わせ、自分たちの答えを見いださせた。

終末

話し合ったことを基に、自分の生活を再度見つめる

発問 授業の始めの自分に声をかけましょう。

- 今だけでなく、これからのことも考えて行動すれば、「○○しすぎてしまう」ことは少し減ると思う。がんばろう!
- 「本当に欲しいのか」と考えるのはできているから、続けよう。客観的に考えることを取り入れると、後悔することがなくなると思うよ。

「これからの自分の生活に取り入れたいこと」という視点を踏まえて考えさせた。2人に発表させた。

ワークシートに本時の振り返りと感想を書く

- ○○さんの「時間をおいて考える」という考えが自分にはなかったから、「なるほどな」と思った。これから取り入れたい。

友達の発言で、自分の考えが広がり深まったところを書かせた。

「許せないよね」

出典：光村図書「中学道徳2 きみが いちばん ひかるとき」

学年 2年 内容項目 A(1) 自主、自律、自由と責任

ねらい 自分の考えで判断し、常に自分の行動に責任をもって、誠実に生きようとする態度を育てる。

岩手県盛岡市立厨川中学校
指導教諭
おいかわひとみ
及川仁美



わたしの授業、ポイントはココ！

本時は「無責任な自分の言動」と向き合い、「自分で考え判断すること」を考えます。そこで、教材には書かれていない、最後の千佳のせりふに対する「私」(香織)の返答を考えることを、中心的な発問に据えました。しかし、この手の問いは、得てして「口先だけのキレイゴト」に終始しがちです。

それを打破すべく、まず、最後の場面を代表生徒に動作化させ、「私」役の生徒に、どんな気持ちになったかを語ってもらい、「言い返さなくてもやもや」「失敗したなあって感じた」などの思いをクラスで共有しました。その後、千佳に対する「私」の返答を、今度は教師(千

佳役)を相手に役割演技で発表させました。心情がリアルに感じられる返答が多く出され、うなずきながら聞く生徒もいました。

ここでもう一押し。「私」が考えなければならなかった大事なことをまとめた後、「口先だけでなく、本当にできるのか」を問いました。生徒たちは「難しいけど……」と悩みながらも、「でも、やらないとだめだよ」と真剣な表情で語ってくれたのが印象的でした。

その後、「私」の行動の修正点を考えることで、単にトラブルに対応する力だけでなく、トラブルに発展させない言動についても、深め合うことができました。

及川先生授業、ココに注目！

この実践のすばらしさは、授業構想時の丁寧な価値分析と教材分析です。A(1)「自主、自律、自由と責任」を指導する際に留意すべきことは何か、情報モラルに関する教材で前提とすべきことは何かを教師が明確に意識していないと、授業が上滑りしてしまいます。自分の言動に責任をもつ意味や、情報モラルを考えるときに欠如しがちな「主体性ある自分」への気づきを、役割演技などの工夫で焦点化し、最悪な事態を回避するための道徳的行為のイメージを広げている点にも、着目してほしいと思います。

國學院大學 教授
たぬまじげき
田沼茂紀

教材の内容(あらすじ) クラスで千佳のボールペンがなくなった。SNSの「盗んだのは沙弥だ」という匿名の書き込みを見て、「私」(香織)は、千佳からの沙弥を非難するメッセージに、つい「許せないよね」と返信してしまう。翌日、言い合いになった千佳と沙弥の間に割って入った「私」は、千佳に「沙弥のこと許せないって言ったでしょう!」と怒りをぶつけられ、どうしたらよいか、わからなくなってしまった。

導入

若者のネットトラブルの現状を知り、学習への興味・関心を高める

発問 これは、何のグラフだと思いますか。

- 交通事故? 詐欺?
- 急に増えているのは、何があったんだろう?
- 被害者だけでなく、加害者も増えているって怖い。

グラフを示し、青少年もネットトラブルに巻き込まれることを、自分事として考えるきっかけとした。情報機器やSNSとの関連を意識させた。

展開

教材を読み、クラスでの話し合いや動作化、役割演技などを通して考える

発問 なぜ、「私」(香織)は「そうよね、許せないよね」と返信してしまったのでしょうか。

- 千佳の勢いがすごかったから、つい、流れで言ってしまった。
- 書き込みを見たとし、千佳の機嫌を悪くしたくなかったから。
- 「許せない」とまでは思っていない。でも、言い返すのは難しい……。

「私」を共感的に捉える生徒が多いと思われたので、「私」に自分の気持ちを重ねて素直に語らせた。

中心的な発問 「私」は、この後、千佳にどんなことを言うと思いますか。「私」の役を演じて考えてみましょう。

- まず、ちょっと落ち着こう。そんなにがんがん責めないでよ。
- 沙弥の話も聞いたほうがいいよ。
- ごめん、メッセージではああ言ったけど、やっぱり根拠がないよね。
- 千佳、自分だって証拠もないのに犯人扱いされたら絶対いやじゃん。
- ▶ こういうとき、大事なってどんなことだろう。
- ちょっと立ち止まって、一回考えること。
- 言われている相手の立場とか気持ちを、想像する余裕があればいい。
- 自分の言葉にちゃんと責任をもつ。
- ▶ 言うのは簡単だけど……本当にできる? 難しいくない?
- 実際、難しいって思うけど……。でも、やらないとだめだと思う。

まず、3人で最後の場面を動作化させ、「私」役の生徒が感じたことをクラスで共有し、その後に、千佳に対する「私」の返答を考えさせた。役割演技の形で発表させ、千佳役は教師が行った。

「私」が考えなければならなかった大事なことを出させた後、「口先だけでなく、本当にできるのか」と問い返し、自分自身の本音と向き合わせた。

発問 こうなってしまう前に、どうにかできなかったのでしょうか。

- やっぱり、メッセージのところ。ちゃんと千佳に言えればよかった。
- よく考えないで返事してしまったのがいちばんだめだった。
- ▶ じゃあ、どんなふうに変えられる?
- 「証拠もないのに、よくないよ。明日、ちゃんと探してみようよ」
- ▶ 他に、修正できそうなところはある?
- 最初のボールペンがなくなったところ。沙弥の「誰かが盗んだんだ」という言葉に反論したり、いっしょに探したりすれば、別の流れになったかも。

「言葉に責任をもつ」ことでトラブルが防げる場面を具体的にイメージさせたいと考え、「私」の行動について修正できるところを考えさせた。

終末

本時の振り返りをする

発問 ノートに、深く考えたことや新たな気づきなどをまとめましょう。

3人に発表させ、気づきや学びを共有した。



道徳授業で 哲学鍋を

苦野一徳
Itoku Tomano
(熊本大学准教授)

“本質”を洞察する

哲学とは何か？

わたしは一言で、「本質洞察に基づく原理の提示」の営みであるといっています。

教育とは何か？ 道徳とは何か？
恋とは何か？ 幸せとは何か？
よい社会とは何か？……

哲学は、こうしたさまざまな事柄の“本質”，つまりいちばんの根っこ、根本を、とことん考え抜いて解き明かします。そしてそれを土台に、これらにまつわるさまざまな問題を解き明かす考え方（原理）を提示するのです。

「教育とは何か」が十分に理解されなければ、わたしたちは、何を目指して、どんな実践をしていけばいいか、わからなくなってしまうでしょう。それぞれの教育観や主義主張が、激しく対立してしまうこともあるでしょう。

同じように、「道徳とは何か」がわからなければ、道徳教育において、わたしたちは何をどのように実践していけばよいのかもまた、よくわからなくなってしまうのです。

物事の“本質”を洞察することを本領とする哲学は、その意味でとても大事なもののなのです。

“本質”とは共通理解可能な考え方のこと

“本質”とはいっても、それはもちろん、「絶対に正しい真理」のことではありません。できるだけだれもが「なあるほど、それは確かに本質的な考えだ！」とうなってしまうほどに考え抜かれた“共通理解”可能な考え方。それがここでいう“本質”の意味です。

先にも挙げた、「よい社会とは何か」といった哲学的なテーマについて話し合うとき、わたしたちはつい、「それって人それぞれだよ」で済ませてしまうことがあります。

でも、多様な人たちが共存せざるを得ないこの社会の中では、わたしたちは、「よい社会なんて人それぞれだよ」で済ませるわけにはいきません。絶対王政を「よい」と思う人がいてもいいし、全体主義の社会を「よい」と思う人がいてもいい、などというわけにはいかないのです。「みんな違ってみんないい」は、確かにすばらしい考えです。でもこれは、ともすれば、あからさまな暴力支配も、ナチスのような全体主義も、最後の最後で批判することのできない「なんでもあり」の考えになってしまうかねないのです。

今日の民主主義社会は、1万年以上におよぶ人類の戦争の歴史の中で、哲学者たちが、長い思想のリレーの果てにわずか250年ほど前に見いだした「よい社会」の“本質”です。

もちろん、これは絶対に正しい社会の在り方ではありません。「よい民主主義社会」の内実についても、わたしたちは今後もっと深めていかなければなりません。でも、まずはだれもが「なあるほど、それは確かに『よい社会』』についての本質的な考え方だ」という考え方を見いださない限り、わたしたちはこの社会をどうつくっていけばよいかわからなくなってしまいますのです。

わたしたちの人生には、「人それぞれ」や「みんな違ってみんないい」では済ませられない場面が多々あります。対立や争いを避けたり終わらせたりするために、「ここまでならみんなが納得できる」という“共通理解”可能な考えにたどり着かなければならないときもあるのです。

哲学は、このような“本質”“共通理解”を洞察するための思考法を、2500年の長きにわたって鍛え上げてきました。

わたしもまた、近年、その思考法を、だれもが実践できる「哲学対話」の方法として提案し、老若男女問わず多くの方々が続けています。

本質観取とは

それを「本質観取」といいます。まさに、道徳とは何か、教育とは何か、

恋とは、幸せとは、よい社会とは、といったテーマの“本質”を、みんなで考え、共通理解可能な言葉にして描き合っていく対話です。

その具体的な方法や模様については、これからの連載で存分にお伝えしたいと思います。より詳しく知りたい方は、西研『哲学は対話する』（筑摩書房）や、拙著『はじめての哲学的思考』（筑摩書房）、『ほんとうの道徳』（トランスビュー）などをご参照いただくと幸いです。

今回は、この「本質観取」を道徳科の授業に取り入れることの提案と、その意義について、最後にお伝えしたいと思います。

「考え、議論する道徳」がいられていますが、その際、子どもたちが先生の望む答えを探っていくような授業は言うまでもなく、その反対に、「結局のところ人それぞれだよ」で終わってしまうような授業も、わたしは問題だと考えています。

異なる他者どうしの対話の希望を、それはいくらか失わせてしまうものであるからです。どれだけ対話を重ねても、いつも最後は「人それぞれ」で終わってしまうのであれば、わたしたちは何のために対話してきたのかわからなくなってしまいます。

対話の希望は、人それぞれ考えの違うところがあることを認めながらも、なお「ここまでなら納得できる」という“共通理解”を見いだし合うところにこそある。わたしはそう思います。そしてそれは、まさにみんな

で見いだし合った“共通理解”です。ですから、学習指導要領が注意を呼びかけている、「特定の見方や考え方に偏った」ものではありません。本質観取は、より深い“共通理解”のために、つねに新たな問い直しに開かれているものなのです。

もう一つ、重要なことがあります。学習指導要領は、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」ことを道徳科の目標としていますが、例えば「誠実」にしても「正義」にしても、その“本質”が不明確なままで、わたしたち（子どもたち）はその判断や実践をすることなどできるのでしょうか。

それは、コンパスなき航海に等しい。わたしはそう思います。単なる「人それぞれ」では終わらない、“共通理解”可能な「道徳的価値の自覚」「道徳的諸価値の理解」なくして、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」を育むことなどできないはずなのです。

道徳には、絶対に正しい答えなどありません。でもだからこそ、どこまでであれば、多様で異質な人たちが“共通理解”可能な考え方にたどり着けるかを考え合う。考え合い続ける。道徳科の授業の最大の意義は、ここにこそあると、わたしは考えています。

そんな共通理解を見いだし合う対話の方法こそ、これからこの連載でお伝えしていく「本質観取」なのです。

「哲学鍋」とは、みんなの考えをもち寄りぐつぐつ煮込みながら、みんながおいしいと思える味（より本質的な考え）に仕上げていく営みをイメージしたものです。



苦野一徳 ● とまの いっつく

1980年兵庫県生まれ。熊本大学教育学部准教授。専門は哲学、教育学。著書に『はじめての哲学的思考』（筑摩書房）、『愛』（講談社）など多数。

令和2年度版 小学校『道徳』



令和3年度版 中学校『道徳』



編集部だより

道徳科が特別の教科となり、小学校は4年目、中学校は3年目となります。弊社では、ウェブサイト「きみがいちばんひかるとき 道徳科通信」で、先生方の授業づくりのサポートとなる企画をお届けしてまいりました。それに加え、このたび、道徳広報誌を発刊することといたしました。「手がる！ 気がる！ 助かる！」を旨として、先生方と編集部の懸け橋となる一冊となるよう、企画・編集してまいります。

1年以上続くコロナ禍、人と人との接し方は大きく変化しました。マスクを着用し、距離を保って行動することが日常になり、対話の場面では、パソコンの画面越しだと相手の表情が読み取りにくいとか、様子がわかりにくいといったことを、あまたの人々が経験していると思います。このような状況を受け、創刊号では、対話の大切さをキーワードに、特集、連載を企画しました。先生方が日々の授業で大切にされている対話と、今号の記事が、どこかでつながることができたなら、幸いです。



光村図書Twitter公式アカウントを開設しました

光村図書の懐かしの教材や、教科書にちなんだ豆知識やクイズなど、教科書を身近に感じていただける情報をお届けいたします。

フォローはこちらから➡



光村図書

道徳科通信 創刊号 2021年5月27日発行

発行人 吉田直樹

発行所 光村図書出版株式会社 〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9 TEL.03-3493-2111

www.mitsumura-tosho.co.jp E-Mail koho@mitsumura-tosho.co.jp

デザイン 鷹齋麻衣子 イラスト カトウミナエ/熊本奈津子/霜田あゆ美 印刷所 協和オフセット印刷株式会社

●個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。

詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。

●広報誌の配送停止については、光村図書出版までご連絡ください。